

つ く い えんりようしゃ い し け っ て い し え ん か か げ ん ば た ん と う し ゃ こ え
津久井やまゆり園利用者の意思決定支援に関わる現場担当者の声

1 サービス管理責任者（男性）

- ・ 寮で20年勤務、男性寮の寮長。
- ・ 事件当時も寮長だった。

【概要】

- 事件後、移転が続き生活自体が落ち着かない中で、新しい取組を始めるのは、とても大変だった。
- チームで支援を進めることで、多くの人たちから支援のヒントをもらうことができている。
- この取組を進める中で、今まで自分たちがいかに凝り固まっていたか、同じ目線になってしまっていたかに気付くことができた。
- 生活記録に、本人の様子や職員が感じたことを残すようにしたら、支援が充実し、本人の変化に着目するようになった。
- 「本人の望む暮らし」はなかなかわからない。だからこそ、チームで探っていく必要がある。
- 今後は、他の事業所の方々とこの取組を共有し、当たり前のこととしていきたい。

問1 意思決定支援を始めた当時の様子を教えてください。

- 事件後から移転が続き、2度目の大きな移転を経て芹が谷園舎での生活が始まった。生活を組み立て直さなければいけなかったが、一方で日中活動の担当職員が大幅に減るなど、休む間もないほどで、疲弊感の中で取り組むことについては、とても大変だった。

問2 チームで取り組む中での変化を教えてください。

- 毎日の支援業務の中で感じている行き詰まりや限界について、相談支援、県・市担当者、意思決定支援専門アドバイザーなど、施設の外のチームメンバーと検討する中で、多くの人たちから支援のヒントをもらうことができている。今まで自分たちがいかに凝り固まっていたか、同じ

めせん
目線めせんになってしまっていたかにきづ気付くことができた。

とい
問3 支援面しえんめんでの変化へんかを教おしえてください。

- これまで、生活記録せいかつきろくには支援しえんした事実じじつだけを簡潔かんけつに書かくよう指導しどうされてきた。
- それを、生活記録せいかつきろくに、外出がいしゅつした事実じじつだけでなく、外出がいしゅつした時ときの本人ほんにんの様子ようすや職員しょくいんが感かんじたことを残のこすようにしたら、記録きろくされている本人ほんにんの様子ようすをもとに、次の支援つぎ しえんが充実じゅうじつし、支援しえんが充実じゅうじつすると記録きろくが深ふかまってい
く…、そういうスパイラルすばいらるが生まれた。

とい
問4 職員しょくいんの認識にんしきの変化へんかについて教おしえてください。

- これまでは「外出する」というイベントいべんと自体じたいが支援しえんだと思おもっていた。
今いまでは、「外出する」というイベントいべんとの中なかで、本人ほんにんがどう感かんじ、変化へんかして
いくかに着目ちやくもくするようになった。その結果けっかがまた生活記録せいかつきろくに積つみ重かさなっ
てきている。

とい
問5 負担ふたんは？

- これまで、毎月まいつき15ページページくらいだった生活記録せいかつきろくが、今いまでは多おほいと50
ページになることもある。こうした生活記録せいかつきろくは、複数ふくすうの目めで丁寧ていねいに整理せいり
して、チームちーむで共有きょうゆうすることで意味いみを持つ。生活記録せいかつきろくを書かく時間じかんはもとよ
り、整理せいりするための時間じかんも通常業務つうじょうぎょうむの中なかでは確保かくほされていないので、
支援業務しえんぎょうむの合間あいまを見みて進すすめる必要ひつようがあるが、それが大変たいへん。

とい
問6 今後こんご、この取組とりぐみを進すすめる上うえで期待きたいすることを教おしえてください。

- 「本人ほんにんの望のぞむ暮らしくらし」を探さがしているのだが、それがなかなかわからない。
常つねに、「本当に本人ほんとうはそう思おもっているのか？」「職員しょくいんの自己満足じこまんぞくなのでは
ないか？」…と自問自答じもんじとうし続けている。自分たちじぶんだけでは答こたえが出だせない
ことが多い。チームおおで取組ちーむむことが大切たいせつだと思おもっている。
- 今後は、他の事業所こんごの人たちたと、この取組じぎょうしょや悩みひとを共有とりぐみしていきたい。
そうすることで、意思決定支援いしけつていしえんが何か特別ななものではなく、あたり前あのものまえ
のようになっていくと思おもう。

2 相談支援専門員（男性）

- ・ 寮で3年、日中活動で6年の経験を経て、相談支援専門員として4年目。
- ・ 平成28年4月に相談支援専門員になり、その年の7月に事件が発生した。

【概要】

- 「本人の望む暮らし」を探るといふ大きなテーマを共有することが大切。それができれば、入所施設とも対等な立場で意見交換できるし、チームが自律的に機能できるようになる。
- 本人を知ったり、本人の楽しそうな様子を知る喜びが、支援現場や相談支援を変えてきている。
- 実践する上で本当に大切なのは、本人を中心に、本人に向き合う支援者としての姿勢。本人を知ろうとする姿勢があればこそ、本人の望む暮らしの実現に近づくことができる。
- 本人の経験を増やしたり、人とのつながりを増やすためには、入所施設だけにリスクを背負わせない工夫があるとよい。
- 地域生活移行のために施設が使えるツールが増えるとよい。
- 入所施設の中に、外部の事業所と柔軟につながることができる別部門があるとよい。

問1 意思決定支援を始めた当時の様子を教えてください。

- 事件から転居が続き、ようやく落ち着けると思った矢先で、「なぜ、今、プラスアルファのことをやらなければいけないんだ」という雰囲気があった。
- 元来、入所施設には、安心・安定の暮らしを長く維持しようとする力が働く。「利用者の健康や安定のための支援はやっている」と考えている入所施設の人たちに対して、「それでも本人中心に考えると意思決定支援に取り組むことは必要」と、サービス管理責任者と足並みをそろえながら進めてきている。大変だが、今後も大切にしていかなければならない。

問2 今回の取組の特徴を教えてください。

- 通常、施設入所者のモニタリングでは、「施設でどう暮らしているか」

と あつか おお しせつがわ いっぽうてき おし たちば
が取り扱われることが多く、施設側から一方的に教えてもらう立場にな
りがち。加えて、家族も学校も市町村も、入所施設に対してどうしても
「預かってもらっている」という感覚が拭えない場合が多い。

- 今回は、「本人の望む暮らし」を探るとい、施設側もがわからないよ
うな大きなテーマを取り扱っている。そのテーマが共有できれば、
入所施設とも対等な立場で意見交換できるようになる。

とい 問3 しえんげんば よ りゆう なん おも
支援現場が良くなってきた理由は何だと思えますか？

- 一般的に、相談支援の現場では「困りごと」を扱うことが多いが、こ
の取組では、チームで「こういう良いことがあった」「こうしたらできた」
というような、ポジティブな情報を集めたり、プラスに向かうための
議論が多い。
- その中で、本人を知ったり、本人の楽しそうな様子を知る喜びが、支援
現場や相談支援を変えてきているのかな、と思う。

とい 問4 ちーむ しえん すず うえ たいせつ おし
チームで支援を進める上で大切にしていることを教えてください。

- 「本人の望む暮らし」を目指すというような大きな目標を、チームで
共有することがとても大切。目標が共有できていれば、チームにある
多様な価値観が武器になるが、目標を共有できていないと、価値観をぶ
つけ合うだけでバラバラになってしまう。

とい 問5 ちーむ ほうこう へんか ひつよう なん おも
チームがよい方向に変化するために必要なことは何だと思えますか？

- 会議のたびに設定される必達目標は、「本人の望む暮らし」を実現する
という大きな目標を実現するためのスモールステップに過ぎないのだ
が、当初は、この大きな目標が共有できていないまま、支援現場が必達
目標の達成だけに追われていた。そうなってしまうと、「県や相談支援
専門員に言われた、必達目標をこなさなければいけない」と「やらされ
感」だけが強くなってしまふ。
- チームとして大きな目標が共有できるようになると、新型コロナウ
イルスのような想定外の状況があつて必達目標が達成できなくても、
より大きな目標に向かってチームが自律的に機能できるようになる。

とい 問6 この取組を進めていく上で、大切にしていることを教えてください。

- 意思決定支援という、意思表出や意思実現といったことが着目されるが、実践する上で本当に大切なのは職員の姿勢だと思う。どんなにがんばっても、わからないことの方がはるかに多い。それでもなお、本人を中心に、本人に向き合う姿勢を、支援者側が維持し続けられるかどうか、いかに本人を知ろうとして、本人の声を聴く姿勢を維持できるか。本人を知ろうとする姿勢があればこそ、本人の望む暮らしの実現に近づくことができる。
- これを楽しいと思えるか、それとも「落ち着いているのにそこまで考える必要があるのか？」と負担と感じてしまうかで、全然違ってくる。

とい 問7 この取組を進めていく上で感じている難しさを教えてください。

- よく「自ら望んで入所された方はいない」と言われるが、入所させざるを得なかった家族にも歴史がある。そういう家族の苦労や苦悩を抜きに、「本人の希望を実現する」とは軽々しく言えない。いくら本人にとってグループホームが相応しいとしても、それを家族にも実感してもらうことが大切で、それに向けてチーム一丸となって取り組むことが必要。
- いろいろなことを丁寧にも解いて、家族も含め、みんなで進んでいく難しさがある。

とい 問8 この取組を進める上での、入所施設の役割を教えてください。

- 本人が入所された経緯等を踏まえ、まずは本人が入所施設に求めているものを入所施設が自らの役割として整理し、支援を組み立ててみることが必要。
- その中で、入所施設できないことがあれば、相談支援はヘルパーや通所先など、他の社会資源を探ることができるようになる。

とい 問9 今後、この取組を進める上で期待することを教えてください。

- 「経験を増やす」「人とのつながりを増やす」というのはとても大切だが、入所施設で何か起こると施設が責められる。入所施設だけにリスク

を背負わせない工夫があるとよいのではないか。

- 地域生活に移行した方の多くは、どこかで制度外の努力がある。今後、これを当たり前にしていくためには、移行先を用意するのはもちろんのこと、地域生活移行のために施設が使えるツールを増やすことが必要だと思ふ。
- 入所施設の中に、計画相談や外部の事業所と柔軟につながることで、かつサービス管理責任者とも協働できる別部門があるとよいと思ふ。